児童文学作品紹介フリーペーパー

紙版 ハコブネ×ブックス vol 45

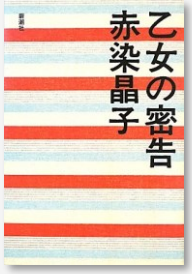
https://hakobune.wp-x.jp

ハコブネ×ブックスは児童文学作品・ＹＡ作品を未来に語り継ぐ web サイトです。

特集 ヤングアダルト芥川賞

芥川賞は純文学作品に与えられる国内最高峰の新人文学賞です。その受賞作は一般文芸書ではあるのですが、広義のヤングアダルト作品として楽しめるものも少なくありません。なにせ芥川賞受賞作だからという理由で、かならず選書する中学や高校の学校図書館もある安心のブランドなのです。今回紹介するのは主に十代の少年少女を主人公にした、年少の読者にも近づきやすい作品です。しかし、ここに描かれた深淵を覗いてしまうことで、子どもたちもまた文学という森に踏みこみ、迷いはじめることになります。筋道の通らない行動や、説明不能な衝動など、人間存在の根幹にあるアンビバレントなものを見せつける文学性は、杓子定規な正しさを蹴散らします。子どもと大人のあわいにあるヤングアダルトな心境に響くものは、必ずしも条理ではありません。純文学×ヤングアダルトが織りなす危うい世界で、心の共鳴を確かめてみることをお薦めします。

乙女の密告



review

作　者　赤染晶子
出版社　新潮社
発　行　2010 年 7 月
ISBN　978-4103276616

京都の外語大学でドイツ語を教えるバッハマン先生は、格別な思い入れを持つ『アンネの日記』をゼミの教材にしています。ここに集う女子学生もまた『アンネの日記』を信奉する乙女たちです。二年生のみか子も、ロマンチックな悲劇のヒロインとしてのアンネに憧れています。暗唱スピーチにひたすら挑み続ける乙女たちには「すみれ組」と「黒ばら組」という派閥がありました。黒ばら組のリーダーの上級生、麗子様のファンである、みか子は、麗子様とバッハマン先生がいかがわしい関係だという黒い噂の真相を確かめようと先生の研究室を訪ねたことで、今度は自分が密告される恐怖を覚えます。みか子は清廉潔白な乙女である自分を守り抜くため、スピーチコンテストへの出場を決意し、アンネと自分を重ねながら、ついには自分自身を告発する密告者となるのです。

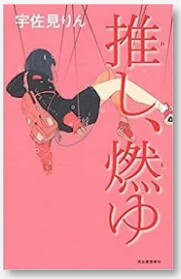
蹴りたい背中

review

作　者　綿矢りさ
出版社　河出書房新社
発　行　2003 年 8 月
ISBN　978-4309015705

高校一年生の六月になってもまだ親しい友人ができない女子、長谷川初美（ハツミ）は寂しさを感じながらも、グループに加わることを拒絶していました。理科の授業で、やはりクラスの余り者の男子、にな川と同じ実習班になったハツミは、女性ファッション誌を広げる人の目を気にしない彼の態度に衝撃を受けます。雑誌に載っていた、にな川が憧れるモデル、オリチャンと会ったことがあると言うハツミに、にな川は驚愕し、その時のことを詳しく知りたがります。親しくはなったものの、にな川は、ただオリチャンのことを一方的に話し続けるだけの熱狂的なオタクです。人とまともなコミュニケーションがとれない、にな川に対してハツミは嗜虐的な気持ちを覚え、その背中を蹴りたくなります。恋愛も友情も育まれない高校生男女の、不思議な共鳴空間が突き刺さります。

推し、燃ゆ



review

作　者　宇佐見りん
出版社　河出書房新社
発　行　2020 年 9 月
ISBN　978-4309029160

十六歳の高校生女子、あかりが推しているのは、アイドルグループのメンバーとして活躍する上野真幸です。彼の姿を見ることで、あかりにはエネルギーが湧き上がり、生きていることを実感できるのです。推しに近づきすぎず、その想いをブログに綴る、あかりは、彼が起こした暴力事件で生じたＳＮＳでの炎上騒動から、理由などなくその存在が好きだという想いを新たにします。ライブに通うためにアルバイトに精を出し、ただ推しを推すだけの生活に、研ぎ澄まされたものを感じていくものの、次第に普通の生活は疎かになり、高校も中退した、あかりは、もはや生半可な気持ちでは推しを推せないとエスカレートしていきます。推しの配信でグループの解散と引退を告げられた、あかりは、傷心を抱えながらも最後のライブに自分の持つすべてをささげようと決意します。

苦役列車

review

作　者　西村賢太
出版社　新潮社
発　行　2011 年 1 月
ISBN　978-4103032328

中学校を卒業してすぐに親元を離れ、ひとり暮らしを続けてきた北町貫多（かんた）は、十日前に十九歳を迎えていました。日雇いの肉体労働で一日に得るわずかな賃金もすぐに使い果たし、家賃の滞納を重ねる生活。将来に希望もなく、友だちも恋人もいない。自分が底辺の人間なのだという劣等感を持て余し、恵まれた人間への妬みや嫉みを募らせる毎日。そんな折、仕事場で、この春、地方から上京してきた専門学校生の日下部と寛多は知り合います。スポーツで鍛えられた身体を持つ精悍な日下部と親しくなるものの、単にアルバイトで働きに来ている彼と自分とでは住む世界が違うことを思い知ります。惨めな気持ちに苛まれながら苦役列車のような人生を続ける自分。職場でのトラブルで仕事も失い、無為に生きていくしかない貫多を文学の光明が照らすには、ここからまだ時間がかかるのです。

赤頭巾ちゃん気をつけて
（庄司薫）
中央公論社 1969 年

一九六九年の安田講堂占拠事件で入試が中止になり、東大法学部を志望する高校三年生の男子、庄司薫（かおる）は、自分の進路に大いに迷います。エリートの悲劇としてステレオタイプで捉えられることに辟易しながら、人を幸せにすることを考える彼のイノセンスとユーモア溢れる文体は、今も輝きを放ちます。

特集
ヤングアダルト
芥川賞

紙版「ハコブネ×ブックス」vol.45
2024 年 6 月 1 日発行　●発行人 きむらともお

事務系会社員。趣味で児童文学紹介サイト ハコブネ×ブックス（非営利）を運営しています。日本児童文学者協会第 6 回児童文学評論新人賞佳作他,諸々を受賞。

旧 Twitter 連携しています。
@ tomoostretch